

「市長と語ろう！～みらいの立川を創る～」 in 子ども未来センター【概要】

平成30年9月29日（土）

14時00分～15時30分

場所 子ども未来センター

1 開会の挨拶

（市長）

こんにちは。足元の悪いところ、今日はお越しいただき、大変ありがとうございます。

今日は、実は立川駐屯地で防災航空祭が行われました。駐屯地は、大変地元に使っていただいております。例えば花火の打ち上げ場所に滑走路を提供してくれて、立川の花火を上げています。立川の花火といえば、この間中止になりましたが、11月23日に行われることになりましたので、ご承知おきをいただきたいと思います。

話は戻りますけれども、立川駐屯地は日本列島のほぼ南北の真ん中にございます。東日本大震災の時には、西日本のほうから、色々な物資や、救助の人員が東北へ集結しました。東北へ一気に飛べないので、中継地として立川駐屯地が使われました。この中継地がないと、いわゆる日本の防災網が機能しなくなる可能性があるということなんですね。

それから、国立病院機構災害医療センターがあります。災害時などに医療の集積、医療の中心地としての働きをするDMATという組織の本部も国立病院機構災害医療センターに置かれています。ですから、日本のいざというときの医療の動きというのは、必ず国立病院機構災害医療センター経由でなければ、出来ないということです。まさに、医療の頭脳が立川に集結しているということなんです。

その後、45周年を兼ねたお祭りがありまして、生憎の雨でしたが、日本中から1万数千人の人が今日の防災航空祭を目当てに、立川に来てくれました。

その他に、箱根駅伝の予選会、立川のマラソン等、色々な形で、立川の今ある長期総合計画の「にぎわいとやすらぎ」という文言の、にぎわいの部分で、大変立川駐屯地にはお世話になって、またご協力をいただいております。市の繁栄のためには、なくてはならない施設になってきているんだと、日々感じているところです。

本題に戻りますけれども、今、立川市は、第4次長期総合計画という10年計画にのって、全ての行政を進めております。かつては、15年の長期スパンでものを見ていましたが、先を見通すのが難し過ぎるだろうと、10年計画にしました。しかし、10年でも、長過ぎる部分が出てきておりますので、5年ごとにチェックしながら、立川のまちを計画的に引っ張っていこうじゃないかということでございます。

来年度中には、第4次長期総合計画の後半5年部分の計画を直すところがあれば修正をし、新たに加えるところがあるのなら、加えていこうじゃないかと。そのための議論の場として、このタウンミーティングにご出席いただいた方々から、ご意見をいただいた内容を盛り込めるものは、盛り込もうと、そういう意味合いで、今年のタウンミーティングは進めてまいりたいと考えているところでございます。

ぜひ、忌憚のないご意見をちょうだいしながら、進めていけたら大変ありがたいと思っています。限られた時間ですけども、ぜひ建設的なご意見をちょうだいできますようお願い申し上げます。冒頭のご挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

2 意見交換

(参加者)

予防接種のことですが、65歳以上の方に、1人当たりの注射料が約4,500円、半分が自己負担、半分が市のほうから公費として補助が出ておりますけれども、インフルエンザの予防接種のお薬の原価って、幾らぐらいかご存じですか。830円です。それを4,500円にする意味があるのかと。4,500円を3,000円ぐらいにして、例えば個人負担を500円、市の負担を1,000円減らすと、多分立川市内全体の65歳以上で、予防接種を受ける方が約1万人いるとしたら、約1,000万円ですよ。それを、乳幼児や、まだ公費の補助が出ていない他の予防接種も公費補助すれば予防接種が安くなってありがたいとなるわけですよ。

これに対して、医者があるだけでなく、初診料もあると反対しますが、初診料は今2,800円ですけれども、1,400円にしたって全然問題ないと思います。プラス原価あわせて、2,500円もあれば、十分医療機関としては成立するわけですよ。

だから、4,500円の値段に設定する意味があまりないのではないかと。かつてはそれでよかったのかもしれませんが、医者もいろんなことを、自覚すべき時代が来ていると思うので、その辺、市で真剣にご検討いただいたらいかがなものかと思います。

(市長)

医薬界、医師の診察料というのは、私どもでどうのこうのというわけにはまいりませんが、声を上げる一つのきっかけにというか、不可能ではないと思います。

(参加者)

今の点、医者、医師会は絶対反対しますので、市民を味方につけて、是非とも前向きにご検討いただきたいと。

(市長)

ただ、それは立川だけではなく、全国的な問題ですよ。私も、全国市長会の役員をしております、行政委員長、総務委員長のような立場でありますので、ただ単なる医師会と喧嘩するようなことではなくて。

(参加者)

ただ、地方自治法で決まった額ではありませんから、立川市が全国に先駆けて頑張るぞ。みたいなことがあっても、私はいいのではないかと思いますけれどもね。

(市長)

私としては医師会の先生方とも、円滑にやっていきたいという気持ちを強く持つておるものですから、できるだけ、柔らかく、うまくできるような方法で。

(参加者)

自治会の高齢単身所帯が増え続けております。また、新規加入所帯の加入が中々出来ていません。その結果、毎年、所帯数の減少が進んできております。

市や自治連のほうでも、自治会への加入促進を色々手だてをしておられるようですが、中々それが目に見えて、すぐ自治会に入る新規転入者がいない状況でございます。将来的に自治会が成り立たなくなるのではないかと不安があります。今の状態でも、ぎりぎりの予算執行でやっておりますので、これ以上所帯が減ると、立ちいなくなる可能性が近い将来見えてくると思っています。

市のほうでは、社会福祉協議会を介して、促進を示唆されているようですが、社会福祉協議会のほうでも、いい案がないようです。市のほうからも、うまく促しをするような方策をお願いしたいと思います。

加入所帯の減少と同時に、私どもの町会は、近い将来、道路拡幅に当たります。私どもの町会では、約20所帯が移動をせざるを得ないのかなと思います。

この拡幅に伴う世帯数の減少、これの永続的な補填を市なり社会福祉協議会のほうからいただければ、平常の自治会補助金プラス補填金で、何とか間に合うのかなという気はしておりますので、よろしくをお願いしたいと思います。

また第六小学校が災害時の避難場所になっておりますが、高齢所帯の多い自治会ですので、第六小学校までたどり着けるのかどうか、それが非常に現在懸案事項となっております。ですから、六小での支援物資なんかの支給以外に、この外れの自治会へも目を配っていただいて、事前の備蓄品なり、支援物資を届けていただければということで、要望をいたします。よろしく願いいたします。

(市長)

自治会の加入者が減ってきているというのは、これは立川全体の問題であります。市全体の人口は増えておりまして、この年齢層が、学生を中心とした20歳前後の人たち、それから40歳以上から中年の人が多いんです。25歳から39歳、結婚適齢期と言われるような年齢層は、逆に減っているんです。

これは、所帯を持ち、家を買う、或いはアパートを単身用から家族用に切り替える際、立川では高いので、青梅線沿線であるとか西武線のほうへ行ってしまうようです。これを防ぐための決定打というのがなかなかないものですから、あらゆる手を使って、やっていきたいと思います。

例えば保育園の待機児対策、これは約3年間でゼロにしました。今年は約40人ですから、色々な事情があって、その約40人の方々は、ある特定の保育園じゃないとだめという方がほとんどです。

ですから、本音のところはほぼゼロに近いということで、25歳から39歳世代をターゲットとしてやっているところですが、中々厳しい状態がありまして、あまりうまくいかないというのが現状です。

今自治会の加入率は約41%ですかね。団塊の世代が次から次に高齢者、あるいは後期高齢者に移っていくということで、それもあってなかなか加入率が下がっている。

中々上手い一手は打てないという状況で、厳しく思っております。ただ、先ほど言った25歳から39歳の世代が定着していただければ、時間がかかりますが、空洞が埋められるんじゃないかなと思っています。

それでは何ができるかと言うと、行政にできる手だてとしては、子育てはしやすいよというイメージを、時間をかけてでもつくり出していかうかなと。そのためには、あらゆる手を使ってやりましょうと、職員にも言っておりますし。そのように、進めてまいりたいなと思っております。

それから、道路拡幅によって自治会のメンバーが減っていく、というお話でございます。道路拡幅によって、それほど人口が減るというのは、私も思いが至りません。このことについては考えさせてください。何かうまい手がないかなとは思っております。

自治会の加入率のアップというのは、これはという手が打てないのが現状でして。これ

からも、もう少し頑張って自治会にご報告できるように考えてまいりたいと思っています。それから、自治会への直接の金銭補填ということですが、例えば、自治会へ入ればこういう魅力があるよという事業を、後押しできるという方向のほうがよろしいのかなと。現金による金銭補填というのは、あまり行政としては好ましくないもので、自治会に加入している人たちへの魅力的なそんな事業がほかにはないかどうか、それらも含めて内部で少し検討させていただきたいと思っております。

(参加者)

高松町は、狭い道路と住宅密集で、消火活動ができないということで、立川市内で唯一地震による延焼危険度が3です。火が出ると、恐らく二小と五小は延焼火災で避難所としては使えなくなることが予測できます。

それで、避難準備、避難勧告、避難指示の徹底を図ってもらうような、パンフレットを作りましたが、どの道を通って逃げればいいのか。高松町では今年の2月までに、その避難所運営の見直しを図るということで、立川市のほうから協力依頼を受けております。それについて、協力しようと思っはいますが、肝心の避難所はどこに逃げるかということがない状態で、作るのが非常に難しいです。

高松町、曙町の3丁目の近郊ですが、地域の中でより安全だというのは、競輪場しかありません。競輪場をまず避難所にして、周辺には企業やららぼ一とがありますから、そこを巻き込んだ形の避難所の運営をやるというのが、高松町と曙町、それから緑町、泉町の中央区域ですね、その部分は真剣に考えないといけません。

約30カ所避難所がありますが、五小と二小を除けば、避難所として使えると思っはいます。二小と五小は避難所管理以前に、住民が安全に避難できる場所とか避難所とか、そこに行くまでの逃げ道などの整理が緊急の課題だと思っはいます。

地域の避難場所は競輪場を使うことを、緊急の課題として検討していただきたいと思っはいます。

(市長)

競輪場は原則的に、災害時の拠点に指定されています。ただ、広域の場合は、時間がかかったり、遠くから来るから、すぐその場ということではありません。まさに緊急に避難をするというのだったら、競輪場、大変そこら辺の学校の何倍もありますから、かなり機能できるんじゃないかなと思っはいます。ご提案を歓迎いたします。

(参加者)

2年前だったと思っはいますが、都のほうから、芋窪街道から東立川商店街に28メートル道路を敷設するということで説明会がありまして、そのときにたしか、32年度を目途にというような話がありました。その道路は、陸上自衛隊の東立川駐屯地の一部を削り、東立川商店街の道路に突き当たる。そこまでの計画を実行に移すという話がありましたが、その進捗状況をご存じでしょうか。

その拡幅が東立川商店街の通りに当たって、その先から、私どもの自治会の道路に、一部区域の住民に移住してもらい、国立の東京女子体育大学の校庭を経て、旧甲州街道に当たると私は聞いているのですが。

東立川商店街の通りから甲州街道までは、いつ実行に移すか分からないという話でした

が、その東立川商店街に突き当たると、私どもが住んでいる所が抜け道になる可能性があります。また、近くには第六小学校があるもので、交通面的に非常に危険な状態になるのかなと思っております。早く甲州街道の方に繋げてもらったほうが、安全面では予防になると思うので、出来るだけ早く東京都にお話しかけただいて、実行に移していただきたいと思いますので、立川市の心づもりと意図をお聞かせ願いたい。

(総合政策部長)

今現在担当から聞いているお話としましては、昨年5月から今年の2月まで、環境の現況調査を実施していると。今後は、環境影響評価書案、それから都市計画の変更等もあるようですので、そのへんの説明会を行いたいというところまではお話を聞いております。

甲州街道まで繋げる話は、3・3・35道路、要は立川市の南北を貫く大きなネットワークとなる道路で、甲州街道につながるネットワークになっていますので、その辺は東京都としても考慮の上、事業化に移っていくと思います。

(参加者)

ただ、時期的な問題が。広域防災拠点とも繋がる話だというのは。

(総合政策部長)

説明会がございましたけれども、28メートルの高幅員で、既存の住宅がたくさんそこに立地しています。そこに道路を抜くという計画ですので、来年、再来年のうちに道路が完成するという話ではおそらくないと思います。

それから、防災との関連といたしましては、今言いましたように南北を貫く大きな基幹道路になりますけれども、もう一つ立川の市役所の前の大きな太い道路、3・1・34道路という都市計画道路ですけれども、これも防災の拠点を結ぶ大きな都市計画道路でございますので、こちらにつきましては、かなり重要度が高いということで、ここは毎年市長から東京都、あるいは国に対して様々な要望をさせていただいているところでございます。

(参加者)

これは、長年の懸案だと伺っているんですけれども。羽衣町のほうも、そういう話が控えていると聞いていましたが、それが実現するのか、しないのかというのは、非常に曖昧だったんですけれども。東立川商店街のところで止まってしまい、車が左右に分かれざるを得ないです。

その時に、甲州街道に行こうとすると、どこか狭い道を入れていかないとたどり着けない話になりますので、近くに第六小学校があって、今でも羽衣橋というところにT字路になっていますけれども、その交差点が非常に危ない状況になっていますので、いずれ解決していただきたいというのが、私どもの提案です。

(市長)

一体でやらなければ、これはまずいよというお話はしています。

それからもう一つ、南武線が高架化するのが、いよいよということですから、三つ巴になりますので、かなり複雑な交渉になっていくこととは思いますが、担当の部課長、十分心得ております。折に触れて情報提供させてもらえるような形で、ご心配のないような方向で努力してまいります。

(参加者)

中央線の立川と日野の間に、もう一つ駅が欲しいと思います。過去団地の自治会などが

強い反対をしまして、流れた経緯があります。恐らく、今回も強い反対があると思いますので、地元への見返りということで、ご検討いただけたらということです。

富士見町の周辺は、高齢単身者ばかりで、高校生以下の子どもがいません。若い人の居住促進という話がありましたが、基地が2つもあり、飛行法の影響を受けますから、高い集合住宅が建てられるところは無いと思います。

今、団地はリニューアル中で、近々完成しますけれども、人口がまだこの後減ってくるでしょうし、若い人に来ていただくとなると、今の団地では狭いのかなということです。

一方、団地の周辺には、高層マンションがもういくつもできていまして、この影響で、朝特に雨の日、バスが全然乗れないようです。

立川と日野の間は、駅の間隔がかなり長く初乗り運賃では乗れないので、もう一つ駅があってもいいのかなと。長期的な話にはなるでしょうけれども、ご検討いただけたらと思います。

それから、くるりんバスの件で、錦ルートのほうは、お客様が非常に伸びていまして、現在今までの最高の記録ですと、収支率が75%、つまり100円の運行経費に対し75円までは運賃で賄えますよ、以前の南ルートのおよそ倍近くまで伸びてきています。しかし、お客様がどんどん増えて、特に雨の日の夕方など、立川駅でもう満員近い状態が続いています。

一方、バスの車両ですが、5台のうち2台がそろそろ買い替えの時期にきています。

それから、次の改正において、曙ルートと車両を共通化、すなわち、今錦ルートと曙ルートと1台ずつの割り当てですが、これからは錦ルート、曙ルート、2台でやりますよと。で、錦ルートのほうは一部の時間帯は2台で運行します、曙ルートは担当の上水車庫と錦ルートの間の回送車の活用で賄います、こういうことが発表されています。

今曙ルートは、くるりんバスの車両が足りないとき、路線バスの車両で賄っているんですね。今後、バスの車両が足りないということになってきますと、こういうことが増えてきますので、一般路線バスの車両でも通れるようなルートに変更していただきたい。

具体的に申し上げますと、立川通り、旧甲州街道、みのわ通り、このルートを取り囲むようなルートに変更できないかなと。これにより、輸送力の増強、つまり路線バスの大型の車両が使えますから、雨の日などでも満員になることはありませんし。それと、国立市の青柳地域の方からも、かねて運行範囲を広げていただきたいと、ご要望が来ております。

コミュニティバスというのは、他市への越境というとなかなか話が難しくなるんですが、今後の方向性として、ぜひこういうこともご検討いただけたらと思います。

(市長)

駅をつくる話というのは、大体構想の話が持ち上がって、今だと最短でも30年ぐらいかかると、言われています。

また、くるりんバスについては、一般道を通るということになると、くるりんバスを通す必要がなくなってしまいます。バス会社が一般道で、それだけ乗るお客がいるのならやってもらえばいいわけで、そこまでくるりんバスが進出をしてやるという考えは、市としては持っておりません。交通弱者のためにどれだけ役に立つかという思想が、くるりんバスの思想でありますから。

それから、国立の青柳地区の人たちというお話がありました。それは市のほうで聞くのは初めてですが、広域連携協定というのが今あちこちで行っていて、例えば図書館の利用なんかは、各市同士がお互いに連携をして、どちらの市民がどちらの図書館に行っ

も、本は閲覧できますよという形をつくっています。

それをさらにほかの行政サービスに延ばしていこうという話がございまして、広域的なコミュニティバスのお話があるようでしたら、協議をしてみたいと考えています。

（総合政策部長）

多くの方からくるりんバスの運行についてご意見をいただいております。くるりんバスのルートそのものが、今完全にこれでいいかという話では全くなくて、実証実験という部分で行っている部分もございます。台数の問題、料金の問題、もちろんルートの問題、くるりんバスのあり方がこのままでよろしいのかどうかということ、大きさの問題であるとか、交通弱者だとか高齢者を対象としたということは、それはそうなんですけれども、議会でも、デマンドバスの話も出ていますので、コンセプトをきちんと整理しながら、ルート、あるいは料金の考え方、こういったものを考えていくということで、今いろいろと実証実験を行っているところでございます。

今後また検討によっては、新たなルート設定というのもあり得るということで、ご理解いただければと思います。

（参加者）

自治会加入率の減少で、特に若い人が入っていただけないので、自治会でもスポーツ活動や子ども会を通じて勧誘をしています。厳しい状況です。9月25日の市の広報では、31年度の経営方針の中で、今後の行政施策、重点施策、コミュニティの中で、自治会活動を支援し、若年層や子育て世代が自治会に参加しやすい環境づくり、そういったことが記載されていたので、何か具体なお話を聞きたいと思っています。

また、老人会では、親睦を図るために、自分の町会の老人会、錦町全体の旅行、立老連の旅行と旅行が多いです。現在の市の補助は、年に1回、日帰りで1,000円、泊まって2,500円をいただいておりますが、是非、日帰りで1回、泊りで1回、合計2回補助をいただければ助かるなと思っています。

それから、自治会加入によるメリットということで、25年度から絆カードという事業をやっており、現在、134の企業のご協力をいただいて、取り組んでいますけれども。市のサービスで、何かいただけるものがないか、ご検討をいただきたいなと思います。

（市長）

自治会のさらなる応援については、今これから予算を編成するという立場でございまして、具体の話は申しわけないですが、できません。

絆カードによる市の何かサービスというのは、気がつきませんでしたね。何かあればいいですね。少し考えてみます。ピックアップすれば出てくるかもしれない。ただ、どんな人でも、年に1回かそこらは利用するようなものでないかね。

（参加者）

未来センターの駐車場ございますよね。会議をやると1時間では終わらないです。そういうときに、会議であれば減免いただくとか。

（市長）

自治会の役員の皆さんが、心身ともに携わってくれて、本当にいつもありがたいなと思っていますし、ご負担も随分かかっているだろうということを、私どもも会議の中でもし

ばしば話題になっていまして。何とかしようという結論だけは出ています。ぜひ予算が関わることで、事前に議会を通さないで予算に言及するというのは、なかなか私も説明しづらいものですから、ご承知おきいただきたいと。

(参加者)

夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議の委員をやらせていただいている、子どもの発言の場をつくっていきたいと思っていて、立川でも先日、9月2日に子どもと大人のはなしあいin市議会議場が行われまして、夢たち基金という子どものために使うために作られた基金からお金を出して、子どもの夢を実現するという事業が、去年ぐらいから始まっていて、これからもこのような、子どもが社会に参加していけるような活動を続けていってもらえたらいいかなと思って、今日ここに来ました。

(市長)

具体的に何かありますか。

(参加者)

一番は、大人と子どもの話し合いの場の継続です。今年は9月と、あと1月にも行われましたが、少し不定期かなという気がしていて。年に2回やるのであれば、年に2回と最初に言ってもらえると嬉しいです。

(市長)

そういう意見があるということだったら、担当の職員も元気づくでしょうからね、きちんとそれを伝えておいて、それで継続していく努力をします。

(参加者)

市の未来となると、若い人の意見もあつたほうがいいと思うので、質問返しであれなんですけれども、むしろ市長から、聞きたいこととかありますか。

(市長)

今、一番市としてやってもらいたいことはどんなこと？

(参加者)

今年の夏は暑くて、学校でも子どもが熱中症になっていたの、何かそういうのが出てからじゃ遅いというか、どうせ暑くなるのなら、お金とかが、かかるから大変だと思いますが、もっと早い段階でクーラーをつければいいのかとは思いますが。

あと、おばあちゃんが単身で住んでいるけども、近所が結構交流が深くて、向いの人が夜中に具合悪くなっても呼んでくれたら、車出してすぐ病院に連れて行ってあげると言ってくれて、やっぱり地域の交流というのが、とても大事なと思います。

今、確かに不審者とかいるから大変だとは思いますが、そういう地域の交流というのは薄れてしまうので、そういうところを上手い具合にやってもらいたいと思います。

(市長)

クーラーは、今普通教室には、小中学校に全部入っています。特別教室が、あと40部屋ぐらい。来年は年明けになれば、全部クーラーが入るようになると思います。

問題は、体育館です。体育館のクーラーって、ものすごくでかく、高いので。でも、ずっと暑いというのは続く可能性があると思います。ですから、何とか考えてやっていかなくてはいけないと思うんですけども。

(参加者)

私は立川の市報が、非常によくできていると思ひまして、毎回市長さんが「かたらい夢みらい」とやっていて、去年の5月10日付に市長さんのお言葉として、ハードも大切だけれども、これからさらに子育て、教育に一層力を注いでいくことによって、「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」を目指していくのが肝要であると決意していますというくだりになっているので。これに相当私、感激しているんですが。

で、私の考えですが、教育で茶道を小学校か中学校にぜひ入れていただきたい。人づくりで茶道を使わない手はないと思います。小学校または中学校で、茶道を取り入れたら、立川は日本をリードできるのではないかと。よろしくお願いします。

(市長)

茶道に関しましては、小中学校に私のほうから茶道をやれというのは、中々難しいかとも思いますけれども、児童生徒が放課後に自主的に活動するクラブとかなら、まあ可能性があるんじゃないかなと思います。小中学校の校長先生方とお会いするチャンスもあります。その折にでも、お話をしてみたいなと思います。

(参加者)

市長さんとお会いできただけでも、光栄に存じます。市長さんのひとなりは、市長さんの近所の友人から聞いています。今日はお会いできてうれしく存じます。

3 閉会の挨拶

(市長)

今日は皆様、ご協力ありがとうございました。数年前からこの市長と語ろうということをやっておりますけれども、出席者全員からご発言をいただいたのは、今日が初めてでございます。ご協力、ほんとうにありがとうございました。

お一人お一人にそれぞれ考え方を伺ったり、あるいは知っている内容が違ったりするものですから、必ずどんな方にも多様な意見があるというのは当たり前と思っております。ぜひさまざまな角度から、市の行政を見ていただいて、気がついたことを何なりと、例えばこういう公共施設にははがきもございます。書いてポストに入れてもらうだけで、切手は全く要りません。そんなしつらえもしてございますので、今後もぜひ皆様のご協力をいただいて、立川のまちをよくしていくための努力をしまいたいと考えております。

どうも今日はありがとうございました。